

# 書燈

2018年 No. 52



## 館長就任のご挨拶



塘 忠顕  
附属図書館長

2018年4月から附属図書館長を務めている塘 忠顕と申します。館長就任の挨拶文を、との依頼を頂きましたが、就任から時間も経ってしまったので、挨拶の代わりに附属図書館のより一層の利用を含めたいいくつかのお願いをさせていただきます。

図書館と言えば、様々な分野の書籍、雑誌等が収蔵されている空間というイメージが強いかもしれません。確かに福島大学附属図書館には書籍約930,000冊、雑誌約13,000誌の蔵書があります。しかし、現在の大学図書館の機能はこれらの利用だけではありません。「学びの場の提供」も重要な機能の一つで、1階から3階までの各フロアに「ラーニングcommons」と呼ばれる学びの空間があります。ディスカッションできる空間やPCルームもありますので、自分(たち)の学習目的に応じた学びの空間を見つけて活用して下さい。

附属図書館にはたくさんの書籍や雑誌等がありますが、実はそれら以外に「目に見えない」文献が膨大にあります。それが「電子ブック」や「電子ジャーナル」です。附属図書館には丸善eBook Libraryなど4つの電子ブックコレクション、EBSCO社やElsevier社が提供する全文データベースや電子ジャーナルコレクションがあり、全部合わせると延べ約400点、9,000誌にもなります。電子ジャーナルからダウンロードできる論文は無料で利用できるため、自己学習、レポート作成、研究にどんどん利用して下さい。当たり前です

が、電子ジャーナルは大学が出版社と契約を結んでいるため、学内では無料で利用できます。ただし、契約価格が非常に高いため、電子ジャーナルの利用率が低く、費用対効果が低いと契約の見直しを検討せざるを得ません。幸いなことにElsevier社の利用件数(=ダウンロード数)は毎年増えており、食農学類が開設される来年度以降も増えると予想されます。EBSCO社のデータベースの利用件数は横ばい傾向ですが、経済、ビジネス、言語、心理、スポーツ・運動学の分野も含まれていますので、文系学類でも積極的な利用をお願いします。

ところで「巨人の肩の上に立つ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは、自分にとっての発見は、多くの先人たちの知の集積があったからこそ得られたものである、という意味です。数多く積み上げられた過去の成果や業績(=書籍や論文などの文献)の上に立つと、新たに見えるものがある、ということでしょう。大学での学びや研究で新たな発見があった時、自分が探究しようとする課題は何がどこまで明らかになっているのか、問題を解決するためにどのような方法を用いれば良いのか、を知りたい時、私たちは文献を探索し、情報を得ます。文献情報探索ツールは図書館のHPでもいろいろと紹介されていますが、最もよく使われるツールの一つである「Google Scholar」のログインページにはこの言葉が記されています。さて、「巨人の肩の上に立つ」という言葉はもう一つ大切なことを教えてくれます。それは、私たちは先人たちが蓄積した成果や業績を利用して新たな知の創造をしますが、先人たちの成果や業績を常に敬うことの必要性です。「敬うこと」を形にしたものが著作権で、文献やそれに含まれる文章、図表などには必ず著作権があります。文献等を利用する時は、常に著作権を意識し、著作権に関するルールを遵守するようお願いいたします。

## 故渡辺恭彦名誉教授の旧蔵書寄贈について 経済経営学類 岩本吉弘

故渡辺恭彦名誉教授は1967年から1997年まで本学経済学部で勤務し社会思想史を担当されておられました。今年度、奥様から洋書の蔵書の寄贈の申し出があり、資料的価値の高いもの、本学図書館に所蔵されていないものなどを選ばせていただき、107冊の寄贈を受けました。整理・配架等手続きが終了したとのことなので、その内容について紹介いたします。特徴としては次の諸点が挙げられるでしょう。

第1は全体としての特徴です。渡辺先生は主に18世紀フランス、アンシャン・レジーム末期の政治家・経済学者であるテュルゴに関する研究で業績を残された方ですが、フランス革命前後の時期にとどまらず、16世紀ユマニスム(人文主義)から18世紀啓蒙にいたるヨーロッパ全体の思想運動に広く関心を抱かれていました。そこで、エラスムス、ラブレール、ペールなど16～17世紀の主要な思想家たち、コンドルセ、ディドロ、ヴォルテール、ドルバックなどのいわゆる18世紀フランス啓蒙思想家、ボワギユルペール、ヴォーバン、マブリ、さらにケネーを中心とする重農主義者らといったフランスの社会・経済思想史上の重要人物に関する著作・研究書類が広範に集められています。

第2に、渡辺先生の集書は上に述べた思想潮流の周辺領域にも及んでいます。一例を挙げますと、先生はデュボン・ド・ヌムールというケネーの弟子で重農主義運動の中核だった人物について研究論文を遺しておられますが、この人物はフランス革命時に家族とともにアメリカに亡命し、後にその息子エリュテール・デュボンがアメリカで火薬製造工場Eleutherian Millsを設立して、それが現代のアメリカの超巨大財閥デュボン社(テフロン加工のフライパンとかで身近にも聞く社名です)に成長します。寄贈書の中には、その関連でしょう、デュボン社が創業の地につくったThe Eleutherian Mills Historical Libraryが所蔵する手稿類の大部の目録が含まれています。またデュボン(18世紀のポーランド国王家と関係を持つ人物であり、フランスの啓蒙思想家との関係でも有名な元ポーランド国王スタニスワフ・レシチニスキ(こ



の人はフランス王ルイ15世王妃の父でポーランド継承戦争の当事者です)の資料集がある、といった具合です。狭くフランス思想史研究に関わらず利用価値がありうるでしょう。

第3には、従来本学図書館の蔵書には希薄だったフランコ・ヴェントゥーリ Franco Venturi (1914-1994)の著作がまとまって入っていることです。ヴェントゥーリは18世紀啓蒙思想研究の泰斗であり、全ヨーロッパ的観点に立っての研究の枠組みを拡げた人物です。『ロシア人民主義』、『啓蒙のユートピアと改革』、『百科全書の起源』その他の主要著作が直接イタリア語版、英訳版などで手に取れるようになりました。

第4には18～19世紀のフランスの民衆運動・思想史研究の大家モーリス・ドマンジェ Maurice Dommanget (1888-1976)の諸著作、とくに彼が研究をリードしたオーギュスト・ブランキに関する諸著書がまとまって入っていることです。ブランキ(Louis Auguste Blanqui, 1805-1881)は、19世紀フランスの革命的共産主義、つまり少数精鋭の秘密結社による武装蜂起と革命を目指す運動の中心的指導者であり、そのため人生の半分を獄中で過ごしたという人で、19世紀の社会主義に関する一つのシンボリック的存在です。ドマンジェはその生涯の解明や資料発掘に中心的な役割を果たして研究の基礎を提供しました。またブランキ関係だけでなく、革命期からの民衆運動に関するドマンジェの著作が多く集められています。

第5には、いわゆるアナール学派の設立者として有名なルシアン・フェーヴルの原著が複数あります。彼やマルク・ブロックらのアナール学派についてはもはや言うまでもないでしょう。『歴史のための闘い』、『マルティン・ルター』など翻訳のあるものも含めて、フェーヴルの原文を読むのに便利になりました。

総じてこの渡辺寄贈書には、資料的な価値の高い研究上の基本文献、現在では入手困難なものが多くあります。今後、様々な分野での研究上の利便の向上につながることを期待し、ご遺族に感謝の意を表するものです。

本学教員  
対象

# 福島大学学術機関リポジトリ FUKURO\_フクロウ\_に 福島大学での研究成果をご提供ください

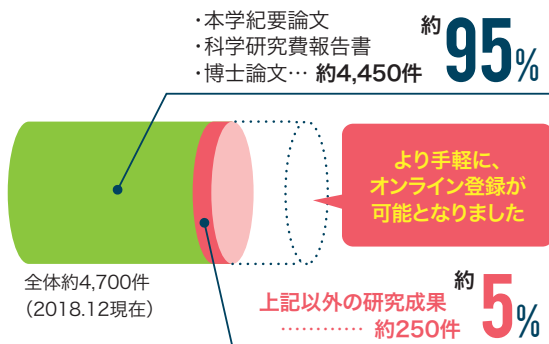
## NEW! 「研究成果登録」機能追加

学術機関リポジトリとは大学の紀要論文を公開する場、そんなイメージがないでしょうか？確かに、FUKURO\_フクロウ\_のコンテンツは、本学紀要論文及び科学研究費報告書などの学内刊行物が大部分を占めています。しかし、**本来FUKURO\_フクロウ\_とは、学会投稿論文・プロジェクト報告書・講演会資料・研究記録など、様々な研究成果を登録・公開できるシステムです。**また、国内外では研究データまで含めた研究成果へのオープンアクセスを促進し、科学的なコミュニケーションと可視性を高めようとする動きがあります。

これまで、学内刊行物以外の研究成果を公開しようとする時には、学術情報課あてにデータと同意書を提出しなければなりませんでした。が、「研究成果登録」機能により、**ご自身でのオンライン登録が可能になりました。**

福島大学で産み出した研究成果を、ぜひFUKURO\_フクロウ\_にご提供ください。

【現在FUKURO\_フクロウ\_で公開されている研究成果】



### 研究成果 登録から公開までの流れ

- DATA 本学紀要・科研費報告書以外の福島大学での研究成果
- 外部への投稿論文・報告書
  - 学会・講演会等資料
  - 講義資料、教材等
  - 映像、音声、ソフトウェア…etc.

### 附属図書館へ研究成果の提供

#### 従来の方法

(引き続きご利用可能)

#### メール/学内便

- 公開同意書、データの送付
- 検索キーワード、書誌情報等の送付

#### NEW! 新機能による方法/オンライン FUKURO\_フクロウ\_ 「研究成果登録」

- 画面上での公開同意、データの登録
- 検索キーワード、書誌情報等入力

### 附属図書館

- データのメンテナンス
- 永続的なURLの付与
- 公開条件の確認

公開

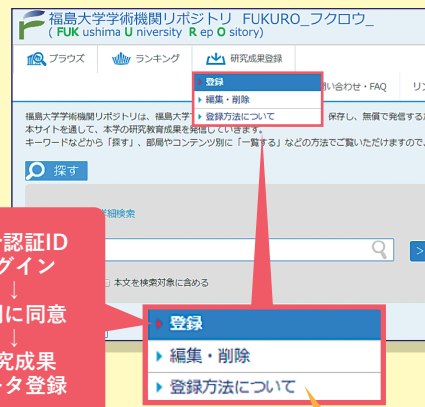
FUKURO\_フクロウ\_

外部サイトからのリンク  
CiNii/JAIRO/検索エンジン

学内外から誰でも閲覧可能なオープンアクセスを実現

### オンライン登録方法

<http://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/>



統合認証ID  
ログイン  
↓  
公開に同意  
↓  
研究成果  
データ登録

対象となる研究成果データ等、登録にあたっての詳細

### 登録前にご確認いただく事項

- 公開できない情報が含まれていないか
  - 共著者、発表者、出版者の許諾(複製権、公衆送信権の行使)を得ているか
  - 一定の非公開期間など、公開条件はあるか
- 確認できない事項やその他不明な点がありましたら、下記担当にご相談ください。

担当/お問い合わせ

福島大学学術情報課(附属図書館) リポジトリ担当

E-mail. [irinfo@lib.fukushima-u.ac.jp](mailto:irinfo@lib.fukushima-u.ac.jp) 電話. 024-548-8083 内線. 2603 FAX. 024-548-2377

# 図書館の便利な使い方

～よくある質問とMyLibraryの使い方～

図書館のカウンターでよく聞かれる質問とその回答をまとめました。

意外と知られていない便利な機能がありますので、ぜひ活用してください。

また、何かわからないことがあれば、図書館カウンターのスタッフまで聞いてみましょう！

**Q.** 本は何冊借りられますか？  
(今自分は何冊借りていて、いつまで返せばよいですか?)

**A.** 学類生は10冊3週間、大学院生は開架20冊3週間・書庫40冊3か月借りられます。また、MyLibraryにログインすると、その圖書の貸出期限を確認することができたり、予約が入っていなければ、期限内に1回に限り延長をすることができます。

**Q.** 貸出中の本に予約を入れない

**A.** 状態が「貸出中」となっている本については、図書館カウンターに行かなくても、OPAC上で予約できます。「研究室」と表示される本は、先生方が研究で使用するため、図書館が間に入って先生方へ問い合わせをしますので、図書館カウンターまでご相談ください。

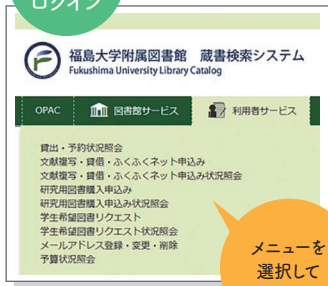
**Q.** この図書館にない資料を取り寄せたいのですが。

**A.** 福島県立図書館や福島県立医科大学の図書館に所蔵している資料であれば、「ふくふくネット」というサービスを利用して、福島大学の図書館に無料で取り寄せて貸出ができます。それらの図書館にもない場合は、他大学などから本を借りたり、文献のコピーを送ってもらったりすることも可能です(こちらは送料やコピー代などが有料のサービスです)。

## MyLibraryへのログイン方法

図書館のホームページまたはOPAC(蔵書検索システム)から、ライブキャンパスなどと同じID・パスワードでログインし、様々な図書館サービスが利用できます。

メニューからログイン



貸出状況の確認



メニューを選択してログイン

検索結果からログイン



貸出中の本は「予約」をクリックして、ログイン

本の予約

ログインすると、水色の画面に変わります



※「ふくふくネット」や他大学からの資料の取り寄せの申込なども、MyLibraryからできます。



## \*\*\* 震災資料紹介 “福島ドキュメンタリー”DVD \*\*\*

図書館2階のカウンター前には「震災関連資料コーナー」があります。ここには、東日本大震災をはじめとする様々な災害に関する資料や、復興関係、ボランティア、福島第一原子力発電所やその事故に関するものなど、5,500点を超える資料があります。また、購入した資料だけでなく、学内外の方々からご寄贈いただいた資料もあり、一般には流通していないものなども所蔵しています。

今回は、その中でJapan Desk Scotlandで制作され、ご寄贈いただいた「福島ドキュメンタリー (DVD)」をご紹介します。

介します。

こちらは、2013年から毎年制作されており、もともと外国の方向けに作成されているため英語での字幕が入っているDVDです。その年ごとに変化してきた福島の現状を、難波謙二教授を中心とする環境放射能研究所などの本学の取り組みとともに見ることができます。

東日本大震災後の福島県内の動きや本学の関わりなどが、ドキュメンタリー映像とともに理解できる内容となっていますので、ぜひご活用ください。

### 【内容】

- 2013 : Our friends in Fukushima (43分)
- 2014 : 100 Bq/kg, 0.23  $\mu$  Sv/h (43分)
- 2015 : Here and there in Fukushima (48分)
- 2016 : Fukushima : 2011-2015 (74分)
- 2017 : Borders in Fukushima - July2016 (65分)
- 2018 : Evacuation Order in Fukushima (68分) <今後受入予定>

貸出はできませんが、館内のパソコンで視聴できます



### 震災資料ご寄贈のお願い

福島大学附属図書館では、現在も震災に関わる様々な資料や記録を収集しています。引き続きご協力をお願いいたします。

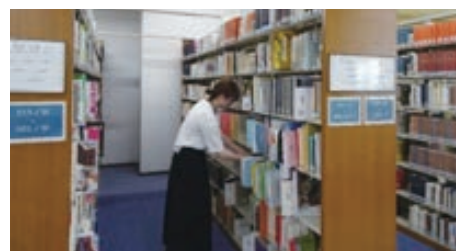
## \*\*\* 学内ワークスタディ報告 \*\*\*

図書館では、2015年度より文部科学省からの補助を受け、図書館の業務補助として学生アルバイトを雇い、職業意識・職業観を育むことなどを目的に「学内ワークスタディ」事業を実施してきました。これまでの業務内容は以下のとおりです。

| 年度   | 採用人数 | 期間          | 主な業務内容             |
|------|------|-------------|--------------------|
| 2015 | 8名   | 11月～翌年2月    | 配架、書庫内の資料整理        |
| 2016 | 15名  | 11月～翌年1月    | 配架、書庫内の資料整理        |
| 2017 | 9名   | 7月～翌年2月     | 配架、書庫内の資料整理、蔵書点検   |
| 2018 | 8名   | 7月～翌年2月(予定) | 配架、食農学類設置に向けた資料整理等 |



事務室内で資料の前装備



開架閲覧室で本の配架

学生アルバイトのみなさんは、地道な作業から体力を使う仕事まで、様々な業務の内容を理解し熱心に働いてくれるため、図書館において大きな助けとなっています。今後も学生のみなさんの力を借りながら、図書館の環境整備につとめていきたいと考えています。

# 学内教員著作寄贈図書



**パンパイディア**  
生涯にわたる教育の改善  
J.A. コメニウス [著] ;  
太田光一 訳  
東信堂, 2015.2

371.23  
C85p

資料ID: 117002323



**覚醒から光へ**  
学問、宗教、政治の改善  
J.A. コメニウス [著] ;  
太田光一 訳  
東信堂, 2016.10

371.23  
C85k

資料ID: 117002335

コメニウスは『広辞苑』には「ルソー・ペスタロッチの先駆。著『大教授学』『世界図絵』など」と紹介されている17世紀の人物です。コメニウスの名前と上記の二著は、教育学の教科書類には必ず取り上げられています。

実はコメニウスは最晩年に学問と政治と宗教の総合的な改革を提案した七部作の膨大な量の『コンサルタティオ・カトリカ』（『熟議』）を書きました。私は断続的にこの著作に取り組んできました。

現役を退き少し余裕ができたので、比較的まとまっている教育論の部分の翻訳をまず出版しました。「パンパイディア」とはすべての人の教育という意味のギリシャ語由来の造語です。次いで墮落している世界の現状を批判し、改善の可能性を示した部分を出版することができました。

引き続き、百科全書的な内容になっている学問論と、世界平和の国際機関の創設を主張した部分を出版する予定なのですが、なかなか思うように進まないのが現状です。（人間発達文化学類／太田光一）



## 転換期と向き合う デンマークの教育

谷雅泰, 青木真理編著 ;  
杉田政夫, 高橋純一 [ほか著]  
ひとなる書房, 2017.9

372.38  
Ta87t

資料ID: 117025132

デンマークでは最近、義務教育を改革し授業時数を大幅に増やした。学力の達成度に不安があるという理由である。「学力」と言い立てることは、日本の現状と似ているように見える。しかし、調べてみるとどうも違う。デンマークでは学校から職業（教育）へのスムーズな橋渡しを課題と考え、教育制度の改変も含め、

さまざまな改革を進めているのであった。それは、移民など弱い人々への対応でもあるし、グローバリゼーションに対するひとつの反応でもある。キャリア教育が喧伝されながら、多くの生徒が普通科高校に在籍し、職業意識の醸成から遠ざけられている日本からみれば、学ぶ点が大いにあるのではないだろうか。

『教育』2018年9月号の書評で取り上げていただいたが、「本書は、移民の増加やグローバリゼーションという歴史的な状況変化の中で、公正と平等、社会的包摂、精神の自由を志向してきたデンマークの教育改革の試みを知り、日本の教育改革のオルタナティブを探究する人々にとって、知的刺激あふれる好著である」という望外の評価をいただいた。私たちの意図を正確に汲み取っていただきありがたいことだった。

（人間発達文化学類／谷 雅泰）



**団子山古墳4**  
福島県須賀川市団子山古墳  
第6次調査報告書  
**塚野目古墳群 1**  
福島県伊達郡国見町塚野目古墳群  
測量調査報告書

福島大学行政政策学類  
考古学研究室  
福島大学考古学報告書；第10集

092.02  
F84f  
10

資料ID: 117026871

行政政策学類には3年生以上対象の実技科目として「考古学実習」があり、その一環として毎年福島県内で発掘調査を行っている。この発掘は行政政策学類考古学研究室（菊地芳朗ゼミ）の活動を兼ね、ゼミ生も加わり実施している。本書は、活動の2016年度報告として刊行したもので、この形態の報告書として10冊目を数える。

本書に掲載したのは、須賀川市団子山古墳の発掘調査成果、および国見町塚野目古墳群の測量調査成果である。前者は2012年から続けている発掘の第6次にあたるもので、被葬者が納められた棺を埋めた穴（墓壇；ぼこう）に関する成果であり、後者はかつて50基ほど存在したとされる古墳のうち、最大の規模をもつ1号墳と、1955年に偶然副葬品が掘り出された11号墳の測量結果である。決して華やかとはいえないが、ともに学術的価値は高い。

考古学の調査成果は文章だけで示すことは不可能であり、本書では精細な図と写真をあわせて掲載している。これらもふくめ、本書は実習履修学生とゼミ生の総力をあげ約半年をかけ制作したものである。彼らの苦勞を読み取っていただければ幸いである。

（行政政策学類／菊地芳朗）

\*「FUKURO\_フクロウ\_」で公開中 <http://hdl.handle.net/10270/4937>

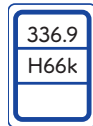
著作資料のご寄贈のお願い

先生方からご寄贈いただいた資料は、新館2Fの「福島大学教員著作物コーナー」等に配架され、本学の貴重な資料として永く保存し、広く学生や地域の方にもご利用いただいております。著作物のご寄贈について、ご協力をお願いいたします。



## ケースブック財務会計

平野智久 著  
新世社, 2018.4



資料ID: 118007682

大学における簿記・会計の学習は多くの場合、「〇〇の金額を求めよ」といった計算問題の反復練習から始まります。しかし、何のための計算かを想像できなければ、「簿記や会計は、暗記に頼る詰め込み型の学習…」といった気分でお

わってしまいかねません。

そこで本書では、日常的に触れられる新聞記事を「前向きな学習」の入り口としました。「A社は前期比3割増益」「B社は減損損失を計上」「C社は社債による資金調達」…それらの背後にはどのような会計理論があり、企業経営へどのような影響をもたらすのか。数多くの実践と理論とを組み合わせながら、経済人の感覚を少しずつ身につけてください。

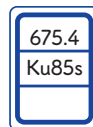
もっとも、ひとつの論点には複数の考え方があり得ることも忘れてはいけません。事例から理論を導き、また理論を実践で確認する…そういった工夫を随所に凝らしていますので、さら〜と斜め読みはできません。ゼミナールや大学院など、複数人で議論しながらゆっくり読み進めてほしいと思います。(経済経営学類/平野智久)



## サプライチェーン・マネジメント概論

基礎から学ぶSCMと経営戦略  
= Introduction to Supply Chain Management

苦瀬博仁編著；  
石川友保 [ほか著]  
白桃書房, 2017.5



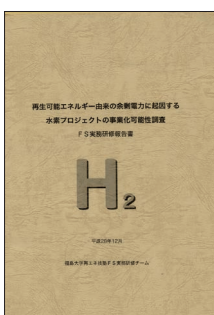
資料ID: 117011346

サプライチェーンとは、『原材料の調達と商品の生産から、流通を経て消費に至るまでのプロセスを、複数の鎖に見立てたもの』である。例えば、農場で収穫された小麦は、製粉工場で小麦粉に加工される。小麦粉は製パン工場で

パンに加工され、ハンバーガー店に届けられる。ハンバーガー店に届けられたパンは、他の食材と一緒にになってハンバーガーとなり、消費者が食べる。この一連のプロセスが、サプライチェーンである。

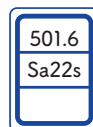
本書は、サプライチェーンの管理(サプライチェーン・マネジメント: SCM)の教科書である。「サプライチェーンとは何だろうか?」と思った方は、本書の第1章をご覧ください。第1章では自動車や書籍などのサプライチェーンを紹介しており、サプライチェーンが我々の生活に関連していることがわかる。そして、第2章以降を読み進めることで、SCMの基礎知識を得ることができる。本書がSCMを理解する上での一助となれば幸いである。

(共生システム理工学類/石川友保)



## 再生可能エネルギー由来の余剰電力に起因する水素プロジェクトの事業化可能性調査

福島大学地域イノベーション  
戦略支援プログラム再生可能  
エネルギー技塾事務局, 2016.12



資料ID: 117019038

ご存知ですか? 福島県が2040年までに一次エネルギー需要量の100%を再生可能エネルギーで賄う計画を推進していることを。ご存知ですか? 2020年東京オリンピック・パラリンピックで福島を拠点として生産した水素で燃料電池車を動かすことを。

平成24年度から5年間福島大学は「地域イノベーショ

ン戦略実現のための人材育成プログラムの開発、実施」を行ってきました。これはそのレポートの1つです。太陽電池など時間的に変動の大きい再生可能エネルギーの蓄電技術の一つとして、余剰電力で水を電気分解し、水素として貯蔵し、それを都心に運び、燃料電池で車を動かす計画の実現性と課題について検討したものです。原理的に可能なものと、事業として可能なものとの間には大きなギャップがあり、それを埋めるための研究・技術開発がエネルギー単価として示されています。温暖化を防止し、持続循環型社会を創造するためには、単なる原発震災ブームに乗るだけでは不可能です。再生可能エネルギーを推進する方に一読をお勧めします。

(共生システム理工学類/渡邊 明)

## カウンターの内側から

人間発達文化研究科 2年 犬野 建

私がカウンターの内側に座りはじめて一年半が経ちますが、日々館内を眺めていて思うのは、図書館とは実に様々な方法で利用されているということです。私自身も書庫への入庫や論文取り寄せなどで、比較的良好に利用しているほうだと思いますが、それは多様な図書館の機能のほんの一部分に過ぎません。

例えば1階のロビーでは折に触れてサークル活動の展示を、あるいは研究の実践報告や貴重な資料の紹介を見ることができます。新館3階のスタディールームやセミナールームでは熱のこもった会議やプレゼンテーションが行われています。もちろん閲覧室では、日夜たくさんの人が書籍の山のなかで広い展望を与えてくれる一文を探しています。

あまり知られていないかもしれませんが、館内のパソコンから様々な学術データベースが無料で使えたり、図書購入リクエストを出せたりもします。ぜひご活用ください。

言うまでもなく、学習スペースを提供するのは大学図書館の最も重要な役割の一つです。ですが、学習スペースと



一口に言っても色々あることをご存知でしょうか。モニターやホワイトボードを使いながら大勢で課題に取り組めるラーニングcommonsもあれば、ほとんどまったく他人の眼を気にすることなく自分の課題に没頭できる個人席もあります。

このように、図書館とはそれぞれの利用者に異なる相貌を見せる、尽きせぬ可能性の源泉であるとも言えるでしょう。あなたにとって最も豊かな図書館の使い方が見つかることを願っています。それはちょうど、一冊の本から、今まで誰も気づくことのなかった珠玉の一節を見つけ出すことに似ているかもしれません。

福島大学附属図書館報

# 書 燈

発行日 / 2018年(平成30年)12月

発行元 / 福島大学附属図書館  
〒960-1293 福島県福島市金谷川1番地  
tel.024-548-8087

<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>



### 福島大学附属図書館報『書燈』第52号 目次

|  |       |   |
|--|-------|---|
| ● 巻頭言 館長就任のご挨拶                               | 塘 忠顕  | 1 |
| ● 故渡辺恭彦名誉教授の旧蔵書寄贈について                        | 岩本 吉弘 | 2 |
| ● FUKURO_フクロウ_新機能「研究成果登録」について                | 附属図書館 | 3 |
| ● 図書館の便利な使い方(よくある質問とMyLibraryの使い方)           | 附属図書館 | 4 |
| ● 震災資料紹介“福島ドキュメンタリー”DVD<br>学内ワークスタディ報告       | 附属図書館 | 5 |
| ● 学内教員著作寄贈図書の紹介<br>『パンパイディア』『覚醒から光へ』         | 太田 光一 | 6 |
| 『転換期と向き合うデンマークの教育』                           | 谷 雅泰  | 6 |
| 『団子山古墳4』『塚野目古墳群1』                            | 菊地 芳朗 | 6 |
| 『ケースブック財務会計』                                 | 平野 智久 | 7 |
| 『サプライチェーン・マネジメント概論』                          | 石川 友保 | 7 |
| 『再生可能エネルギー由来の余剰電力に<br>起因する水素プロジェクトの事業化可能性調査』 | 渡邊 明  | 7 |
| ● カウンターの内側から                                 | 犬野 建  | 8 |

編 集  
後 記

本号は発行が遅れてしまい申し訳ありませんでした。今回は、新館長からのご挨拶にはじまり、ご寄贈いただいた図書の紹介や図書館における様々なサービス及び活動の報告などをお届けしました。来年度は、食農学類が開設することに伴い、現在図書館で準備を進めていることを記事にしてお届けできるとお思いますので、引き続きご愛読ください。(A)